

# レコード軽術 秋

2012  
No.49

特集

## 占有魂

レコード・マニアたちの

秘蔵音源攻防戦



# 静音と高い冷暖房効果を実現

ハイテクファン

エコプレイ 新登場

回転翼のガードを除去した  
結果風切り音大幅減に成功。  
リスニング・ルームに最適。

扇風機とサーキュレータの  
両モードを随時切り替え可能

回転翼は人体の接近を感知  
すると即停止。安全です。

サーキュレータ・モードでは回転翼  
を上に向け、部屋の上下の空気を循環、  
冷暖房効果を向上させます。

アメリカ海兵隊に  
大量納入決定

# 原子力はもう安全

代々使えるオーディオ専用電源

**nPS** 新発売  
nuclear power supply



これだけの方が愛用中・無事故です



定期的に冷却水を補充するだけでメンテナンスは簡単。10万年使えます。水やりを家訓に家宝として末永くお使い下さい。



特集  
**占有魂**

レコード・マニアたちの  
**秘蔵音源攻防戦**

先日、火災でCDコレクションが焼失する事件があり、三人が重体になった。不審火が疑われ、被害者の回復を待つて調査中だが、こんなことがあったらしい。

本彦…おい、この棚の上にあったCDを触つたな、けしからん。

華子…それ、元々兄ちゃんのではないわよ。

本彦…死んだオヤジがこの棚の上までを引き継げと言ったんだ。

華子…その前に私がお父さんに買って欲しいと頼んだのがそれ。初めから私の物よ。

本彦…オヤジが死んだずっと後になってから、そのフィッシャーのディスクが値打ちが出て来たから欲しいと言いだすのは遅い。あさましい。

華子…そもそも問題は、兄ちゃんが棚の上にあるものまでドサクサに紛れて自分の物にしようとする態度が悪いのよ。そのやりかたで何十年も苦しんだ。

朝子..そうよ、そうよ、謝りもしないで。

私は竹満徹のCDを取られた。

本彦..取られたという言い方はなんだ、今、実質お前の物として使っているじゃないか。返せと言いたいのはこっちの方だ。

華子..朝子、あなたは割りにうまくやつてるわよ。余計なこと言わない方がいいかもよ。兄ちゃん案外お人好しで間抜けなところあるんだから。

朝子..私たち、結託して謝らせましょう。

華子..これから毎日棚の上を見回すから、鍵など付けたら承知しないわよ。

こんなやりとりの後、親戚のだれかに言いつけるなどと発展したようだが、親族は口をつぐんでいる。



永田町の次期の顔となる公算大の指揮者とオーケストラによる新譜である。この団体による演奏にほとほと嫌気がさして新永田町フィルが結成されたのが三年前。ところが、あれよあれよという間に支持を失い、「これ位なら元の方がよかつ



■ハイドン 交響曲第100番  
「軍隊」他

安部三振指揮 永田町管弦  
楽団

た」と揺り戻しが起こってしまった。その揺り戻しも並大抵な物ではない。あれよあれよという間に音楽監督に選ばれたのが突然の指揮者投げだしで辞任した安部なのだから、あつげにとられた人も多いただろう。これが民主主義なのかと。

常任指揮者最終任にあたって安部は「やり残したことがある」と言った。やり残したことは何だったのか、今回のディスクにその答えの片鱗がうかがえる。前回の就任時には恒例の記念ディスクとして祖父の指揮する演奏のデジタル・リミックスによる再発売でお茶を濁したのだが（本誌06年秋号）、今回は彼自身の新録音になった。ただし、曲名といい、ジャケットのデザインといい、そっくりだ。

それでも、演奏に清新さがうかがえれば評価の文句が浮かんでくるものだが、大変苦しい。前回の祖父の演奏同様、演奏技術は今日の水準に達していないし、表現は締まりがない。この締まりのなさこそが現代楽器による奏法がバロックの

伝統を踏まえたピリオド奏法に付け入られる箇所であったのだが、反省のようは見られない。それどころか人数は前回より大幅に少なく、奏者一人一人のいい加減さが露呈してしまう。このオーケストラは安部によれば「重厚なメンバー」だそうだが、経験にすぎり小回りの利かない表現力を重厚と言いくるめただけではあるまいか。

あえて重厚といえれば走行する戦車を思わせる低音のリズムだ。ここで表現される「軍隊」は安部の祖父の時代よりもっともつと古い大日本帝国の軍隊を思わせる。揺り戻しはここまで来るのだろうか、次の録音を注意深く見守っていききたい。

彗星のように楽壇に登場、多くの話題をまき散らした上橋のディスク登場である。閉塞感の漂う楽界において、彼ほど注目された男はこれまでいたろうか。これまでの慣習にとらわれない、大胆な楽曲解釈は型破りなゆえ顔をしかめる人々



■ムソルグスキー 上橋通編  
「展覧会の絵」

上橋通指揮 エイジ・オブ・  
リストラクション・プレー  
ヤーズ

を多く生んだが、清涼感を伴って迎えられた。「グレン・グールドの再来」とまで持ち上げた評論家もいた。それだけ楽界が沈滞していたことの証でもある。

このディスクは彼と彼が率いる団体の初ディスクであるばかりか、「展覧会の

絵」の数ある編曲版に新たな作品として加われるかを問うディスクでもある。編曲は上橋の指示のもと曲ごとに割り当てられた小グループによる合作であり、それぞれ異なった手法がうかがえる。それでも全体的には則を越えずであり、有名なラヴェルの編曲の枠を越えるには至らなかつた。

しかし、どれもが水準に達しているかという疑問がある。モーツアルトの冗談音楽「村の音楽家の六重奏」もどきのおかしな和声進行が出てくるが「古城」にはふさわしくない。当初の予定を大幅に下回る人数のメンバーしか集まらなかったことも結果に表れているかもしれない。

最も評価したいのは「リモージュの市場」。打楽器が多用され、大阪独特の猥雑さも垣間見える。次いでは「キエフの大門」か。「リモージュの市場」に囲まれた建物のイメージは通天閣だ。「サムエル・ゴールデンベルクとシユムイレ」は金持ちと貧乏人との対比が大きく描かれている。弱者切り捨ての方針か。

上橋の登場は華やかだったが、奇矯な言動と共に基礎的な実力が疑問視され、ごく普通の団体の一つと見なされるようになってきた。この程度の団体には公的補助が出ないから、運営は厳しい。先行きはいろいろ不安があるものの、一瞬感じた清涼感を上橋も支持者たちも、忘れてはならない。

弦楽のアンサンブルの名曲を集めたディスクである。結成間もないが、話題の団体だ。評者もつい先頃渡欧の機会があり、実演に接することが出来たが噂を裏切らない出来栄に驚いた。つややかで奥の深い響きで、メンバーは国際色豊



■天駆けるストリングス

[モーツァルト アイネ・クライネ・ナハトムジーク、チャイコフスキー 弦楽セレナード他] フランクフルト合奏団

か、地元ドイツ物でもロシア物でもよくこなす。

急成長を成し遂げた裏にはこんな話がある。信憑性はわからないが、聞き捨てならないので紹介する。

この団体のオーナーはアマチュアなが

ら有能なヴァイオリニスト。余暇に友人たちとアンサンブルを楽しんでいたが飽き足らず、プロの団体を結成したいと夢見ていた。

折も折、フランクフルト空港の税関に彼が管理官として着任すると、目にしたのはCDでしか知らなかった憧れの名演奏たちの生の姿。そして、信じられないような高額の値段が付いた名器の数々。そこで一計を図ったのが、管理官の地位を利用して演奏家と名器の両方を手に入れてしまう方法だ。

まず、国際的に活動している奏者の名簿を作る。フランクフルト空港はヨーロッパ有数の空港だから、かなりの数の演奏家が税関を通る。そこで名簿に該当する

奏者がやってきたら書類の不備などをでっち上げて高額関税を要求する。さらに、ここからは報道されていないことだが、もし払えない場合は自分の楽団で働いてもらうことを約束させるといふ。かくして自分の楽団にプレーヤーと運営資金のどちらかをつきこめるのだ。

この話が本当なら、フランクフルト合奏団は税関の管理官に拉致された演奏家の集まりということになる。腕前も楽器もいい理由もうなずける。堀米ゆず子さんをとられなくて本当によかった。このディスクを買った人はメンバーの写真をよく見て欲しい。ヨーロッパへ発つたが戻って来ない人の顔があるかもしれない。

## ベートーヴェンはフェルマータを書き分けていた

「運命」の冒頭、ジャジャジャジャーのジャーはフェルマータ記号が付いていて、任意に延ばすように指定されています。ところが自筆譜をよく見ると1回目と2回目は記号の書き順が違います。



当交響楽団の音楽監督である野駄目佳彦はそれぞれの記号に「近いうちに」と「しかるべき時に」の意味があるとし、この解釈に基づいて楽曲を分析、ベートーヴェン解釈に新たな境地を開きました。

野駄目佳彦最終レコーディングとなる  
か、文字通り運命がかかったディスク、

# 近いうちに発売



## 新永田町フィルハーモニー

# 次期指導者へイメージトレーニング・キット

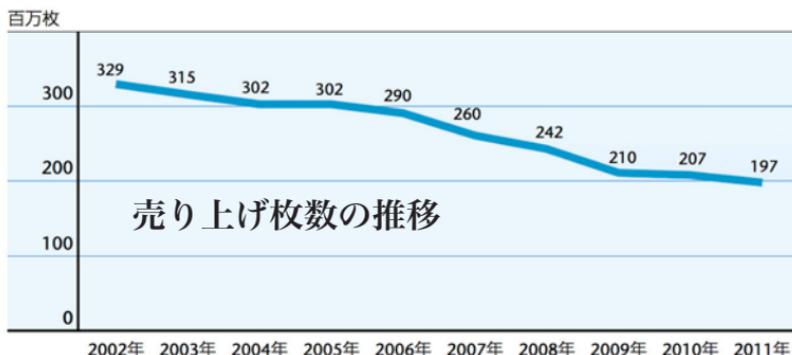


上の画像はスタータ・キット フル・オーケストラまで5段階用意

「議員みんなの維新が第一」を後援



# CDは過去のメディアになってきました



## 2030年までにリサイクル事業から撤退します

これまで私たちは有限の資源である原油由来の原料から作られたCDを有効に活用することで環境保護に貢献してきました。しかし、枚数の減少から経営規模の縮小を余儀なくされ、金剛および蓮華の廃炉に始まる事業撤退計画を決めました。撤退と併行して新エネルギー関連の事業の展開を予定しています。

### CD引換券

不要なCDを5枚を本券に添えてお持ちの方から抽選で進呈

オントモグループ **オントモ燃処理**株式会社

有効期限 2012.10.2

## 編集後記

領土問題が話題に上るにつれ、政治の右傾化と 3.11 の風化が危惧されます。ただパロっているだけでなく、安易な流れに対する警鐘も含めたいところです。その点では今回も会心の誌面ではありません。

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを  
[http://members2.jcom.home.ne.jp/s\\_yanagawa/](http://members2.jcom.home.ne.jp/s_yanagawa/)  
で見ることができます。

レコード軽術 '12 年秋号 (通巻第 49 号)

2012.10.28 第 1.5 刷発行

編集発行人 柳川誠介  
〒 195-0054 町田市三輪町 539-119  
TEL&FAX (044) 989-8510  
s\_yanagawa@jcom.home.ne.jp

印刷・製本 家内工業

